

平成20年度

学校経営計画中間評価
(スクールマネジメントプラン)

平成20年10月22日

京都府立嵯峨野高等学校

| 学校経営方針（中期経営目標） | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点（短期経営目標） |
|---|---|---|
| <p>◇ 「学校力」を向上させ、府民から信頼される学校づくりを行う。</p> <p>◇ すべてにおいて、安全・安心の学校づくりを行う。</p> <p>◇ 「Sagano Dynamics」を推進する学校づくりを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Sagano Dynamics : the way in which things or people behave and react to each other</p> </div> | <p>① Sagano Dynamics の推進の一環として京都こすもす科の学科改編を行うとともに、普通科も含めた教育課程の大幅な見直しや学校行事の再編等に着手し、教育内容の一層の充実と魅力ある学校づくりに向けた新たな方向性を構築することができた。広報活動にも力を入れた結果、適性検査の出願者数は過去最高となった。</p> <p>② ベル開始を励行し、授業を大切にしている指導を徹底するとともに、家庭学習定着月間等の取組により学習意欲の喚起と学習習慣の確立を図った。また、年2回の授業アンケートの実施により授業の質を高めることができた。 一方、生徒の学習時間の量的確保という点では課題が残った。今後、土曜日の活用のあり方も含め、授業・放課後・家庭での学習サイクルを一層機能させる方策を検討する必要がある。</p> <p>③ 面談や進路検討会を充実させるとともに進路情報の効果的な提供により、生徒の進路意識が確実に向上した。今後、難関国公立大学をはじめとした生徒の第一希望の進路に対するモチベーションを出願時まで維持させ、その実現を確実に図る必要がある。</p> <p>④ 遅刻防止週間や服装・頭髪を含めた礼儀作法の指導を徹底することにより、遅刻者が大幅に減少するなど、概ね落ち着いた規律ある学校生活を送らせることができた。 一方、雨天時の傘さし運転等、自転車のマナーについては改善の余地がある。今後も学校生活全般について引き続き粘り強く指導を継続する必要がある。</p> <p>⑤ 快適な学習空間を提供できるよう、日常的に施設・設備を点検するとともに新たに自習室を設置した。また、年間17回の大掃除等の美化活動を徹底することにより良好な環境を維持することができた。但し、ゴミの分別が不十分であるなど環境問題への意識が希薄な面も見られる。美化意識の一層の向上を図る取組が必要である。</p> | <p>◇ 基本的な生活習慣の確立と、社会の一員としての正しいルール・マナーの定着</p> <p>◇ 環境問題への意識の高揚と、校内環境美化の推進</p> <p>◇ 学習のトライアングルの徹底と、確かな学力の定着・向上</p> <p>◇ 3年間を見通した計画的な進路指導の徹底と、生徒の第一希望の進路実現</p> |

| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策 | 評価 | | 成果と課題 |
|------------|---|--|----|---|--|
| 組織・運営 | 学校評価システムを計画的・機能的に運用し、教育の質の確実な向上を図る。 | 中間評価、総括評価を計画的に行うとともに、速やかに結果を公表する。 | B | | <ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画に沿った学校運営はほぼできている。 外部評価は2学期に実施予定 |
| | | 学校評議員や保護者による外部評価を実施し、学校評価に生かす。 | | | |
| | 災害・防犯等学校の危機管理について、日頃から対応できるよう教職員・生徒の共通理解を深める。 | 防災・防犯等で更に工夫すべきことを検討し、実施に向けての具体的な手だてを行う。 | B | | |
| 教育課程の編成と実施 | 学校経営方針を実現するため、教育課程の不断の検証を行う。 | 教育課程等検討会議で教育課程を不断に検証し、生徒の学力実態及び大学入試改革に対応できるよう必要な見直しを行う。 | A | | A |
| | 平成20年度の改編の成果が出るよう、教育課程を確実かつ効果的に実施する。 | 京都こすもす科と普通科第Ⅱ類人文系の教育課程を効果的に連動させながら週35時間授業を充実し、学力の伸長を図る。 | B | B | |
| | | 普通科第Ⅰ類では週32時間授業と補習を効果的に連動させ、学力の充実を図る。 | B | | |
| | 京都こすもす科の教育を推進し、充実に努める。 | 専門学科に関わる教育研究を行い、各系統の特色にふさわしいフィールドワークやサマーキャンプ、高大連携等のあり方を検討する。 | A | | |
| 学習指導 | 授業を中心に据えながら、計画的な学習習慣の確立により学力の定着を図る。 | ベル開始の励行により授業を大切にする姿勢を身に付けさせる。 | A | | B |
| | | 課題の提出を徹底させるとともに予・復習を習慣付けさせ、学習習慣の自己管理を促す。 | B | B | |
| | 主体的・発展的な学習を促し、学力の向上を図る。 | チャレンジタイム、土曜日の学校開放への積極的参加を促し、長時間自学自習をやりきる力を身に付けさせる。 | B | B | |
| | | 進学補習や学習合宿等の発展的な学習の場への参加を促すと同時にワンランク上の問題にチャレンジする気概を養う。 | B | | |
| 進路指導 | 自らの生き方や進路について主体的に考える力を育成するとともに、自己の進路適性を理解させる。 | 講演会・アゼンブリー等を通して効果的に情報を提供しながら計画的な進路学習を推進する。 | A | A | |
| | | 高大連携事業への積極的な参加を促す。 | B | | |

| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策 | 評価 | | 成果と課題 |
|---------------|---|---|----|---|-------|
| 進路指導 (続き) | 生徒一人一人にとっての高い進路目標の設定とその実現に向けて指導の充実を図る。 | HR担任による生徒・保護者との面談をできるだけ多く実施し、課題を明らかにしながら生徒自身による自己変革を促す。 | A | A | |
| | | 学力分析と進路検討会の充実を図る。 | A | | |
| 学校図書館 | 学習・情報センターとしての学校図書館機能を充実する。 | 図書館資料等を収集し、整理、保存し、生徒及び教師の利用に供する。 | B | B | |
| | | 図書館活用に関して適切な指導を行い、読書意欲の向上、読書習慣の形成に努める。 | B | | |
| | | 全教育活動を通じて図書館の計画的な利用を促進する。 | C | | |
| 生徒指導 特別活動等 | 基本的な生活習慣を確立させ、自主的かつ規律ある集団の育成と、生徒一人一人の個性の伸長に努める。 | 関係分掌間の連携を密にし、学年部の一致した指導により遅刻者を少なくする。 | B | B | |
| | | 自転車乗車マナーの向上及びステッカーの定期点検を行う。 | B | | |
| | | あいさつの励行、言葉遣い等礼儀作法の指導を徹底する。 | B | | |
| | | 部活動への加入を奨励する。 | A | | |
| 健康・安全 教育 | 心身ともに健康に過ごす環境づくりを行い、自己管理能力を身につけさせる。 | 生徒の実態に応じた対応を行う。 | B | B | |
| | | 保健学習を行う。 | A | | |
| | | 教育相談会議を機能的に運営し、共通認識をする。 | B | | |
| 学習環境 | 環境美化活動により、より良い学習環境づくりをする。 | 大掃除ごとに重点項目を示し、清掃活動を実施する。 | B | B | |
| | | 日常清掃と「汚さない日常生活」を心がける気持ちを育てる。 | B | | |
| | | ごみの分別を徹底するとともに持ち帰らせる指導を強化し、ごみの量を削減する。 | B | | |
| | 樹木に囲まれた自然環境の中、校舎等の施設・設備の維持管理に努めより良い学習環境を保持する。 | 省エネルギー（節電・節水等）の意識を教職員・生徒に徹底し、効果的な冷暖房等による良好な学習環境の維持に努める。 | B | | |
| 研究・研修 | 指導力向上のため、研修の充実を図る。 | 時宜に合った分掌研修を企画するとともに教科研修の内容を再検討する。 | B | B | |
| | | 教科指導力向上のための外部研修を円滑にサポートする。 | B | | |

| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策 | 評価 | | 成果と課題 |
|------------|---|---|----|---|-------|
| 情報・文書管理 | 個人情報保護の観点も踏まえ、セキュリティを確保しつつ効果的な校務管理体制を推進する。 | 本校独自の校務システムを円滑かつ確実に運用する。 | B | | |
| 広報活動・生徒募集 | 普通科及び京都こすもす科に関する広報活動や特色ある取組の充実を図り、意欲をもった生徒の応募につなげる。 | 学科説明会等を開催するとともに中学校・塾対象説明会及び関係機関等への訪問について内容や方法を充実・改善し、各系統の特色の一層の周知を図る。 | B | B | |
| | | 各種広報資料の作成及びホームページの充実を図る。 | B | | |
| | | ホームページに各種行事等をタイムリーに掲載する。またテレホンサービスの周知を図る。 | B | | |
| 家庭・地域社会との連 | 家庭・地域社会との連携を図り、開かれた学校づくりの取組を行う。 | P T Aとの連携を充実し、家庭への情報提供を進める。 | B | B | |
| | | 「嵯峨野だより」の内容や発行回数を充実させ、よりきめ細かな情報提供を行う。 | B | | |
| | | より広い地域社会への貢献を目指し、さまざまな取組を模索する。 | B | | |